

2019 年度実施概要

学校名

大田区立大森第一小学校

採択活動名

「SDG s」と「ESD」の推進

取り組みの概要

地球規模の取り組みが始まった「SDG s」と、新学習指導要領の示すカリキュラム・マネジメントの考え（ESD カレンダー）の指導事例を作成し、平成 31 年度大田区教育研究推進校研究発表を大切な機会と捉え、区内外へ幅広く発信電話番号きた。

ESD カレンダーの開発者から、作成方法を本校教員が学び、区内の教員に広めていく。区内在住者に「ESD=生きる力」であることを周知し、ESD の認知度を高めていくことができた。

児童が事象や問題の本質を捉えることができるよう、深く・広く思考する教育活動を実践し、学びに向かう力を高め、「わたしたちにできること（自分事化）」を研究授業の実践をお願い通して追求した。今年度研究授業後に各学年が実施した ESD 集会をさらに充実させ、研究の日常化を意図的に実践できた。

海苔漁業の本場であることを生かし、「大森海苔のふるさと館」や「大田区郷土博物館」との連携をさらに強化し、本校の「海苔の資料室」の保存と充実、地域への開放を進めた。地域に根ざした教育活動とともに、ユネスコスクール（申請中）としての役割を果たすよう研究をすすめられた。海洋教育パイオニアスクールプログラムに申請し「海に広がるアクティブラーニングの可能性」を探求できた。

本校は開校 145 年という区内最古の学校であり、地域との関係はかなり強い。一方、かつては中心産業であった大森の海苔や町工場が、諸問題により衰退傾向にある。地域への愛着があるからこそ、児童には「持続可能な社会」という観点から「大森のまち」に目を向けさせたい。そして「わたしたちにできること」を考え、意見を出し合うなかで、学校経営方針の一つである「自立と共生」の力を養い、児童に生きる力を育ませてきた。

「環境が人をつくる」という学校経営方針に基づき、平成 29 年度から 3 年計画で環境教育を軸とした「SDG s」「ESD」の研究に取り組んでいる。近隣には「ふるさとの浜辺公園」や「内川」等、学習環境は整っている。ESD・SDG s の専門家やゲストティーチャーを招く回数も増やし、校内研に次記の 2 名の外部講師を招いている。

目白大学人間学部児童教育学科教授 石田好広先生【環境省】※平成 29 年度から継続

前 全国小中学校環境教育研究会会長 末吉潤一先生 ※平成 29 年度から継続

大田区教育委員会指導課教育アドバイザー・前本校校長 内田聡司先生 ※平成 31 年度より

活動中の写真



実施単元名

- | |
|----------------------------------|
| 1. 第5学年総合的な学習の時間「大森第一未来環境ラボ」 |
| 2. 第6学年図画工作「私たちが創る未来の町（ドリームプラン）」 |